

## A-2 : 研究機関とURA

開催日時・会場 9月18日(金曜日) 13:45 -15:15 会場A

### URA機能・産学連携機能のより良い接続のあり方と組織のかたちを再考する

近年、大学や研究機関等において、教員・研究員に対する支援機能として「URAの機能」「産学連携の機能」を併せ持つ場合が少なくない。そして、大学等の規模によらず、URA機能と産学連携機能を切り離して考えることはできない。一方でそれぞれの機能を担う組織構成や、URA、産学連携コーディネーター、事務職員等の担当業務の範囲は、大学等の置かれた状況や上記職種の人材が所属する組織の設立等の経緯により一様ではない。

このような前提の上で、本セッションでは、まず前半で、産学連携・URA機能を別組織で有する大阪大学の山賀博氏(産学連携コーディネーターの立場から)、産学連携・URA機能を組織として一体化させ、更なる深化を進める名古屋大学の加藤滋氏(事務職員・URAの立場から)、URA・事務職員が研究推進・産学連携機能を一体的に担う信州大学の岡崎壮悟氏(事務職員の立場から)、民間企業として全国のコーディネーターやURA等と協働する株式会社キャンパスクリエイトの益田忍氏(企業の立場から)といった異なる立場の登壇者からそれぞれの所属機関からの事例紹介を行っていただく。そして後半では参加者を交えて、「URAの機能」「産学連携の機能」を一体化することによるメリット・デメリットおよび各機関での課題を共有し、それらの解決策やより良い方向性を議論することによって、参加者・セッション関係者の今後の業務遂行につなげることを目標とする。

URA、産学連携コーディネーター、事務職員等の方々とともに、研究成果の社会還元のための、また研究の発展のための各機能のより良い接続のあり方と組織のかたち、さらにはスタッフ同士の協働促進方策について再考したい。

### セッション担当者

大屋 知子: 大阪大学 経営企画オフィス URA部門  
リサーチ・マネージャー／特任准教授



日本学術振興会特別研究員、大阪大学微生物病研究所研究員等として、DNA複製・組換えに関する研究に従事。その後、大阪大学産学連携推進本部、国立循環器病研究センターにて、ライフサイエンス分野における産学連携等の業務に携わる。2014年1月より現職にて、研究支援および大学の経営支援を行っている。博士(理学)・知的財産修士(専門職)取得。一級知的財産管理技能士(特許・コンテンツ・ブランド専門業務)。

## 登壇者

### 山賀 博: 大阪大学 共創機構産学官連携オフィス オフィス長補佐



製薬企業に約30年間勤務し、研究部門、開発部門、経営企画、環境CSR、技術研究部門、製造部門などに携わる。2018年1月から大阪大学産学連携部門勤務。現在、産学官連携オフィスにて、外部相談窓口、共同研究講座、協働研究所設置支援などを担当。

### 加藤 滋: 名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部 本部長補佐



30数年、大学行政に従事。2004年の国立大学法人化においては国立研究所の統合に参画。2012年より名古屋大学勤務。研究支援部門において研究活動上の制度、組織構築等を担当。以降2015年から産学官連携担当部長として新しい共同研究制度の企画・運用のほか、総括窓口として学術研究・産学官連携推進本部長とともに名古屋大学の本格的産学連携活動の啓蒙に従事。2019年にURAに転身し、同本部の本部長補佐として50名弱のURAの総括を担当。

### 岡崎 壮悟: 信州大学 研究推進部 大型研究推進課 主査



1980年東京生まれ。これまで事務職員として、基礎研究の支援業務を5年間（(独)日本学術振興会への出向2年間含む）、産学連携の推進業務を6年間（文部科学省への出向3年間含む）に従事し、本年4月1日から大型プロジェクト支援を担当。昨年度に(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構のNEDO Technology Startup Supporters Academy(SSA)を受講し、大学発ベンチャー支援業務にも従事。大型プロジェクト支援では、競争的資金の申請支援、採択後のプロジェクト運営業務でURA等と連携。

### 益田 忍: 株式会社キャンパスクリエイト 技術移転部 マネージャー



電気通信大学卒業後、ITソリューション企業でエンジニアとして勤務。加工食品企業、保険会社、通信会社に常駐し、情報システム部門、カスタマーサービス部門等で主にブリッジSEとして携わる。

2013年3月より株式会社キャンパスクリエイト技術移転部に勤務。現在、産学連携支援、大学発ベンチャー支援、人材紹介支援などを担当。